

- 季節の花：・マツ（松）
・セントポーリア
- コラム：お正月飾り
- 情報：花のイベント

ふらっとふらわーず ニュース

- 発行：ふらっとふらわーず
- 2020冬号：第29号
- 連絡先：042-315-4158
- 編集委員：内田信子

季節の花

★【マツ】（松）【マツ科 / マツ属】

松は日本画に多く描かれ、お正月には玄関に飾られるなど、古くから日本人に親しまれる樹木です。寿命も長く、樹齢数百年のものもあり、堂々とした樹形からは風格が感じられます。また、盆栽や庭木としても楽しめます。赤道直下の熱帯・亜熱帯から、ロシアやカナダなどの北極圏まで、北半球の広い範囲に分布しています。日本にはアカマツ、リュウキウマツ、コウマツ、ハイマツ、クロマツ、チョウセンコウマツの6種の自生が見られます。なかでも、クロマツは樹高が30mにもなり、寿命も長いので、長い年月をかけて枝つるすと樹形を維持していくと、風格がある庭の主木となる代表的な樹種です。豪壮な外観からオトコマツ（オマツ）とも呼ばれます。芽吹いてから4年ほどはクロマツを若松といい、お正月飾りによく使われます。アカマツの葉は、クロマツより細く柔らかい。また、葉が束生するため、オンナマツ（メマツ）とも呼ばれます。樹皮は赤茶色で古くなるのはがれ落ちます。アカマツの樹齢が20年から300年になると松茸の発生が始まります。

コウマツは別名メマツといい、葉は青みを帯びた灰緑色で、5本束生します。マツの仲間では葉が1年から5年間枝に残ります。そこで、庭木としての樹形を美しく維持するためには、古い葉の「もみあげ」や「ミドリ摘み」といった技術と知識を要する手入れが必要であり、主木としての付加価値を高める条件といえます。種は食用され、木は建築材に、樹脂は松ヤニに木全体を利用することができます。松ぼっくりは、球果と呼ばれる果実のことで、別名「松笠・松傘・松毬（まつかさ）」とも呼ばれます。雌しべの先端に付いた実が成熟し、大きな実のようになります。最初は固く閉ざっていたヒタが、乾燥すると開き、中に花のような種がたくさん入っています。種が風に乗って運ばれると、松ぼっくりは根元から外れて木から落ちます。学名と属名になっているPinus（パイン）は、ケルト語で山を意味する「pin」が語源となっています。和名は、行く末を「待つ」や、神が木に宿るのを「待つ」、冬でも葉が緑のまま雪や霜を「待つ」とを意味します。また、葉がたくさん枝にまつわりつく「まつわる木」や、葉が二股に分かれている「股が転じた」など多数の説があります。

花言葉：「不老長寿」「永遠の若さ」「向上心」（花言葉辞典）

（参考：趣味の園芸、ホルティ）



五葉松



アカマツ



若松



クロマツ



★【セントポーリア】

イワタバコ科 / セントポーリア属

セントポーリアは熱帯アフリカ東部の山岳地帯に24種ほどが分布しています。葉が短いロゼット型と、葉が伸びて這つていくタイプがあります。園芸品種はセントポーリア・イオナンタやセントポーリア・コンフューサなど、ロゼット型を中心に改良されたと考えられています。ドイツで品種改良が始まり、その後アメリカでも改良が進みました。園芸品種は無数にあり、花形、花色、葉形、草姿がさまざまです。アマチュアの愛好会で楽しめる園芸品種は、変化に富んでいます。性質の弱いものや輸送に不向きな園芸品種もあり、それとは別に、営利を目的として改良された、落花しにくく、多花性で丈夫な園芸品種が多く生産されています。蛍光灯の照明でも十分に育つので、室内でワイヤークーラーに蛍光灯をつけて栽培でき、棚を組めば狭い場所でも数多くの園芸品種を収集できるのも人気の理由です。法用量を間違えると危険なため毒草に指定されています。

育て方

栽培環境：レースのカーテン越しの、日ざしが当たる、明るい室内で育てます。寒さと暑さに弱いので、冬は最低温度10℃以上を保ち、夏は北側の窓辺など涼しい場所を選びましょう。

水やり：春と秋は、用土の表面が乾いたら鉢の底から水が流れ出るまでたっぷり。夏は少し乾かし気味に。用土に直接水を与え、葉にはかからないようにしましょう。

肥料：9月から5月まで液体肥料を

ふやし方：葉ざし：適期は3月から5月と、8月から9月土や、バーミキュライトに、葉が下から1/3ほど埋まるように少し傾けてさします。

花言葉：「小さな愛」「細やかな愛」「親しみ深い」（花言葉辞典）

（参考：趣味の園芸、ホルティ）



オブティマラ



イオナンタ



コラム

お正月飾り

— 歳神様をおもてなし —

古来の日本では、亡くなった方はやがて神様になる、という考え方を持っていました。祖先の霊は田畑の神や山の神となり、実りをもたらし子孫を見守っていると考えられ、神様となった祖先の霊は1年に1度、元旦に子孫のもとを訪ねてくると考えられています。この子孫のもとへやってきた神様を「歳神様」といいます。門松やしめ縄、鏡餅などの正月飾りは、この「歳神様」祖先の霊をもてなすための意味があります。



歳神様を丁重にもてなすことで、歳神様から福を分け与えてもらい、安泰な1年を過ごすことができるといわれています。歳神様が降りてくるときの目印といわれているのが門松です。一年を通じて葉を茂らせる常緑樹はその生命力から神様が宿るといわれ、お正月飾りとして松が使われるようになりました。一般に門松というと竹が目立つイメージですが、門松は名前の通り松が主役です。竹がなくとも、松を飾れば立派な門松です。門松は玄関前や門前に、左右で対になるように飾りまじょう。しめ飾りも年神様を迎えるための飾りです。しめ飾りが境界となって邪気を寄せ付けず、家の中が「歳神様を迎えるために清められた場所」であることを示します。本来はしめ縄を家の周りに張り巡らせたのですが、今はしめ飾りや輪飾りが使われることが多くなりました。しめ飾りには、「ワラジロ（不老長寿）」「ゆずり葉（子孫繁栄）」「橙（家運隆盛）」などの縁起のいい植物をつけて飾ることもあります。お正月にかざらすめでたいものの象徴として飾られるのが松、竹、梅。中国では「歳寒三友（さいかんのさんゆう）」と呼ばれ、宋代より始まった、文人画で好まれる画題のひとつです。正月飾りでも、門松やしめ縄、フワフワアレンジメントなどに用いられます。松は雪の重みにも負けず、冬の寒い季節にも青々とした葉をつけて、「長寿や不老不死の象徴」とされ、竹は非常に成長が早く、最も成長する時期には1日で1m近く成長するといわれています。まつすぐに成長し、嵐や大雨にも負けない様子から、「生命力、健康、成長の象徴」ともされています。古くは春の花といえは、桜ではなく梅のこころをさしていました。寒い冬を耐えて、春先には咲く梅は春の訪れを伝えてくれます。また、他の花に先駆けて、白と赤のおめでたい色の花を咲かせる梅は、新春を象徴する清らかな花であると考えられています。12月31日に飾ることを「一夜飾り」といい、良くないとされていますが、それは葬儀の一夜飾りに通じるからとか、実際に歳神様がいらっしやるのが、31日だから、という説もあります。



情報

花のイベント

（事前申し込みあり）

- 菜の花まつり ソレイユの丘 (事前申し込みあり)
- 12月13日(金)～3月31日(火) 長井海の手公園
- 世界らん展日本大賞2020
- 2月14日(金)～21日(金) 東京ドーム
- 第9回寄口ウバイまつり
- 1月11日(土)～2月11日(火)
- 西神国民保養地 福寿草園
- 寄自然休養村管理センター前広場
- 2月上旬～3月中旬 埼玉県小鹿野町